

山梨大学 留学生 センターニュース

no.10
2013
SEP

海外からの学生の受け入れを経験して

山梨大学生命環境学部
環境科学科 風 間 ふたば 教授



今から10年前の初夏だったように記憶している。当時の土木環境工学科教授の竹内邦良先生が代表として申請していた21世紀COEプログラム「アジアモンスーン域流域総合水管理研究教育」が採択となったのである。この大型予算の獲得を契機に、私の海外からの学生、特にアジアの途上国出身学生との付き合いが始まった。

学生を受け入れて感じたことは、国による教育レベルや教育方法の違いであり、また勉学に対する学生のモチベーションの違いであった。概して途上国出身で日本に留学しようとするような学生は、それまでも奨学金を確保して勉学を続けてきた者が多く、したがって成績も優秀であった。また自身の学歴や業績が卒業後のキャリア形成や収入に直結することを良く理解しているため、勉学や研究に対するモチベーションは高かった。しかし一方で、机上の勉強は得意であっても実験や実習の経験は乏しかった。自身の手を使って信頼できるデータを取得することから研究が始まるような分野においては、非常に心もとない学生達だと思われた。日本人学生なら当たり前に行えることが、博士課程の学生になっているのにできないのである。当初はたいへん驚きもし、また指導に戸惑ったりもしたが、彼らと話してゆくうちに、国によって“教育”に関する考え方が異なることがよくわかるようになってきた。日本国内においても、教育課程は時代によって変化しているが、海外においても同様である。また途上国では政治的な不安定さが、若者から教育を受ける機会を奪っていることもしばしばあった。したがって、同じ年齢であったとしても学生の経験や能力は異なる。彼らの興味の方向とあわせてこの点をよく理解し、個別に適切な指導を行う必要性を痛感した。すべての学生指導に満足できたわけでもなく、反省点も多い。

それでも、研究の議論をする中で、ぴたりと息が合ったと思える時を共有でき、「分かった！」と目を輝かせ、研究に邁進する学生達にめぐり合うことができた。海外からの学生の目覚ましい変化は、それを近くで見ている日本人学生にとってもよい刺激になったことは言うまでもない。切磋琢磨とい



言葉がそのまま当てはまるような雰囲気生まれ、教員冥利に尽きると感じられる、何とも言いがたい時を得ることもあった。日本人同士であっても、人との付き合いとは簡単なものではない。言葉の問題があればなおさらである。しかし幸いなことに、大学においては研究テーマを共有することで、双方が本音をぶつけながら課題に取り組むことができる。その密度の濃いやりとりの中で、彼らの持つある種のダイナミズムは、日本人教員に刺激を与え、広い視野を持つことの重要性を実感させている。この十年の自身を振り返り、思うことである。



現在、本学と大学・部局間協定を結んでいる大学は約30校あります。そのなかで、交換留学の制度があるのは、佐々木みおさんが留学した米国イースタン・ケンタッキー大学(EKU)のほかに、英国オックスフォード・ブルックス大学(OBU)、ドイツのドレスデン工科大学、フランスのリヨン第三大学^(※)、オーストラリアのシドニー工科大学(UTS)、タイ王国コンケン大学あります。

また、語学留学として、夏季英語研修(EKU、UTS及びカナダのプリティッシュ・コロンビア大学)、春季英語研修(英国レスター大学)もあります。

留学を考えている皆さんは、以下へご連絡下さい。

国際交流室(055-220-8373)、又は留学生センター奥村(055-220-8152)♪

※ リヨン第三大学への交換留学は教育人間科学部の学生に限ります。

2013年度(平成25年度)後期 時間割

	月	火	水	木	金
I 9:00~10:30				初中級ⅡB(江崎) 研修Ⅱ(江崎)	研修Ⅱ(長阪)
II 10:40~12:10	初中級ⅡA(奥村) 研修Ⅱ(奥村) 中上級Ⅱ(仲本) 研修Ⅰ(江崎)	研修Ⅰ(伊藤) 研修Ⅱ(岡部)	日本事情Ⅱ(伊藤) 中級ⅡA(仲本)	研修Ⅰ(奥村) OH(江崎)	研修Ⅰ(井上) 研修Ⅱ(長阪) OH(伊藤)
III 13:10~14:40	研修Ⅰ(江崎) 研修Ⅱ(奥村) OH(仲本)	研修Ⅰ(伊藤) 研修Ⅱ(岡部)	研修Ⅱ(二宮)	研修Ⅰ(奥村)	中級ⅡB(伊藤) 研修Ⅰ(井上)
IV 14:50~16:20	研修Ⅰ(江崎) OH(奥村)	研修Ⅰ(江崎)	研修Ⅱ(二宮) OH(伊藤)	研修Ⅰ(奥村)	研修Ⅰ(井上) OH(伊藤)
V 16:30~18:00	甲府・補講(長阪)	異文化B(奥村) 上級Ⅱ(江崎)			甲府・補講(井上)
VI 18:10~19:40	甲府・補講(長阪)		医学部・補講 (長阪) 18:00~19:30	医学部・補講 (岡部) 18:00~19:30	
VI 以降	医学部・補講 (高田谷) 19:00~20:30		医学部・補講 (二宮) 19:30~21:00	医学部・補講 (岡部) 19:30~21:00	

OH: オフィスアワー

留学生センターの取り組み

日本語・日本事情教育

■学部留学生対象 日本語・日本事情教育

学部留学生を対象とする日本語授業として、「初中級」、「中級」、「中上級」、「上級」の4レベル6科目を前期・後期ともに開講し、「演習（プレゼンテーション）」を前期に開講しています。これら7科目は、大学で必要とされる日本語能力の向上を目指しています。また、日本語を母語とする学生とともに日本の文化や社会についての理解を深める「日本事情」、異文化の理解と尊重を目標にした「異文化間コミュニケーション」の授業も開講しています。いずれの授業も、eラーニングを取り入れつつ、学習効果を一層高めるよう努めています。

■日本語補講

本学に在籍する日本語能力が十分でない大学院留学生及び研究生などを対象に、日本語補講を開講しています。入門レベルから論文作成レベルまで幅広いクラスがあり、甲府キャンパス・医学部キャンパスともに提供しています。また、山梨大学に入学した日本語入門レベルの受講者を対象とした、サバイバル・ジャパニーズの教材の英語版及び簡体字版を作成し、現在補講で使用しています。

留学生指導相談・文化交流

■留学生指導相談・文化交流

山梨大学に在籍する留学生に対して開かれた「留学生相談室」があり、留学生の勉学や生活、人間関係等の相談に応じています。個別相談では、相談者一人一人の話にじっくり丁寧に耳を傾け、相談者とともに考えていくことを心がけています。また、留学生チューターの活動指導・支援を通じて、直接相談室を訪れない留学生の問題や問題の種を知ること、問題の予防や早期発見・解決に繋げるよう努めています。留学生に関わる教職員や学生と連携しながら、留学生が母国とは異なる言語・習慣の環境にあって楽しく充実した留学生生活を過ごせるよう、見守り、また手助けしたいと思っています。

日本語研修コース

2012年度後期、研修コースⅠ（入門～初級レベル）には交換留学生、大学院生を中心とする7名が参加、研修コースⅡ（初級後半～初中級レベル）には9名が参加し、無事15週のコースを修了しました。最終日である2013年2月15日には、成果発表会が行われました。贈答の習慣などの日本の文化や社会に関して資料調査したもの、また日本人大学生の学生生活や社会問題についてアンケート調査やインタビューをしたもの、また日本近代文学の作家を取り上げ、作品の登場人物の深層心理を考察したものなど個性溢れる発表が並びました。それぞれの発表の後の質疑応答で留学生間、または指導教員の先生方からの質問にしっかり答えようとする留学生の姿には、15週間前にはなかった自信が感じられました。



日本語研修コース 2012年度後期修了式

学生の声

海外留学体験記

「アメリカの芸術に触れた自分らしい留学生活」

教育人間科学部 国際共生社会課程 国際文化コース4年 佐々木 みお

私は2012年8月から2013年5月下旬までの約10ヶ月間、米国のイースタン・ケンタッキー大学(EKU)に留学しました。高校生の頃から、大学4年間の間に米国に留学したいと考えており、それを実現したいという理由もあり国際文化コースを選びました。英語は苦手だったのですが、高校生の頃からコツコツと勉強を始め、何とかTOEFLの点を伸ばすことができました。この度山梨大学からEKUへの留学生は私1人だったため、期待半分、不安半分で、渡米しました。

米国で英語を勉強し、話せるようになりたいという気持ちもちろんあったのですが、舞台芸術、ダンスなど、アメリカの文化や芸術を学ぶことがかねてからの夢でした。中学生の頃米国に1ヶ月間バレエ留学し、それから米国の舞台芸術の虜になりました。今ではバレエだけではなく、アメリカで生まれたJazz、Hip-hopなど幅広く挑戦し個性的なダンサーになれるよう日々努力しています。米国の大学は舞台芸術科など他にも日本の国公立大学ではあまり見られない学科が充実しており、交換留学は在学中の日本の大学で勉強できないことを学ぶ良い機会です。EKUも舞台芸術コースが充実しており、舞台裏で照明や大道具の係として働かせてもらったり、演技、ブロードウェイミュージカルのダンス指導を受けたりできました。体育科でもダンスのコースが充実しており、様々な種類のダンスや、ダンスに必要な解剖学の授業なども受けることができました。芸術に言葉はいらないと信じて渡米したのですが、やはり授業は別で、講義形式の授業は毎回教科書を読まなくてはならない量が多かったり、テストが頻繁にあったり、実技の授業でもレポート、プレゼンテーションが多かったり、向こうの大学はとにかく課題が多いため、苦労はしました。特に解剖学の授業は、日本語でも分からないような内容を英語で一から学んで行くため、大変でした。そのおかげで、英語の授業をそんなに取らなくても、英語力は伸びたと思います。

授業外ではEKU Dance Theatreという大学のダンス部のようなパフォーマンス団体に所属していました。所属するにはまずオーディションを受けなければならなかったのですが、渡米後1週間ほどで開催されたオーディションに英語も上手く話せないまま、なんとか参加しました。ここでは私が信じていた通り言葉はいらず、ダンスを見せただけでみんなが注目してくれ、オーディション合格後はDance Theatreの仲間と過ごす時間が多くなりました。秋季と春季の公演に参加させてもらったのですが、春季では振付師のオーディションにも受かり、他のダンサーを自分で選んで、振付はもちろん、曲、構成、衣装、照明など全てを任せられ1つの作品を作りました。地元の新聞にも取り上げてもらい、ダンサーとしては最優秀新人賞もいただきました。

留学するまでは色々不安に思うこともあったのですが、向こうの人々に支えられ、日本の皆さんにも支えられ、とても充実した留学生活



イースタン・ケンタッキー大学の友だちと

を送ることができました。日本では感じられなかったものを感じ、新しいものや人々と出会い、たくさんの方のことを吸収して帰ることができました。10ヶ月間で価値観、人生観も大きく変わり、将来の目標も定まりました。生涯の友もたくさんでき、また1つ帰る場所ができました。留学で何をできるかというのは、人それぞれであり、その人が留学先でどのように行動するかによって変わってきます。関わる人々、所属団体、参加するイベント、努力量などによって得る内容も量も変わってきます。私は留学中、常に何事にも積極的であることを目標にしていたましたが、それを日本での日常でも心がけ、感度を高めてたくさんの方のものを日々吸収していきたいと思います。一歩足を踏み出すことで、世界が変わるかもしれません。留学をお考えの皆さん、応援しています。

日本留学体験記

マデン・イスマイル
オックスフォード・ブルックス大学交換留学生

私はイギリスのオックスフォード・ブルックスという大学から交換留学生として山梨大学に一年間勉強しに来ました。来日は三度目だったので、会話はすでに少しでき、日常生活の経験もありましたから、ホームシックやカルチャーショックはあまり感じませんでした。しかし、大学の友だちと話すようになるとわからない文法や語彙がたくさん出てきて、少しくらい話せても、日本語はまだまだ下手なのだと自覚するようになりました。日本語の授業は一生懸命頑張りました。大学の友だちや先生方のおかげで、日本語も上達し友だちとの会話もよくできるようになりました。

先に書いたように、私は以前に日本に来たことがありましたが、日本の大学で勉強するのは今回が初めてでした。最初の学期は日本語の授業で文法や漢字をたくさん学習し、日本語を上達させることができました。次の学期は日本人といっしょに勉強する授業にも参加し、新しい友だちがたくさんできました。また NICE というサークルで日本の友だちと楽しいイベントに参加することもできました。

大学以外でも、文化活動や旅行、遊びなどを通して、日本にいる間にさまざまな体験したいと思っていました。文化活動としては「信玄公祭」が一番印象に残っています。他の留学生といっしょに当時の侍と足輕の服を着て甲府の町を練り歩いたのです。また私は旅行も大好きなのでよく旅行に出かけました。北海道、東京、富士山、愛知、関西、九州へ行きました。そこで見た風景と土地の人たちが違い、とても興味深く感じました。またイギリスには山が少ないので、日本の山の景色は本当に気に入りました。特に山に囲まれた山梨では毎日のように大自然の美しさや移り変わりを実感することができました。

写真は奈良県で撮った初日の出の写真です。ホームステイをしたときに撮影した写真で、美しい光景に感動しました。一年間の留学の思い出として残します。日本で色々な経験をし、勉強したりするなかで私の世界はさらに広がりました。それはちょうど初日の出のように、私のこれからの人生の出発であり、さまざまな素晴らしい出来事との出会いが続いていくことを期待しています。



日本・山梨文化体験と行事の数々

■華道体験（2012年11月2日）

毎年、本学華道部の雨宮先生と部員の学生さんにご協力いただいております。留学生の華道体験。これまで、華道部の普段の稽古場である大学会館2階の和室で行っていましたが、今回は大学祭に華道部の作品の一部として留学生の活けたお花も展示することになり、大学祭前日に展示場所となる総合研究棟1階のフロアで行いました。また、これまでは皆が同じ花材を活けていたのが、今回は3種類の取り合わせを用意してもらいました。花の組み合わせは3種類でも、15名分の作品を並べると、活けた留学生一人一人の好みや性格、思いなどが表現された多彩・多様な眺めに、親身になって手伝ってくれた部員の学生さんたちも驚いている様子でした。

■やまなし留学生スピーチコンテスト（2012年11月25日）

山梨大学赤レンガ館で今年も留学生スピーチコンテストが行われました。本年度は本学から3名の留学生が出場し、中国からの留学生崔天晟さんが見事2位を受賞、またマレーシア政府給付留学生のイクワン・ファリッドさんがアドヴォネクスト賞を受賞しました。今回のテーマは「共生と創造力」という大きなテーマで、それを自己の具体的な体験とどう結びつけていくか、留学生たちは頭を悩ませている様子でした。当日のコンテストでは、近年の日中関係に触れながら平和の大切さを訴えたもの、日本の中華料理に文化の共生を発見したもの、家族のメンバーの国際結婚を話題にしたものなど、バラエティ豊かな発表が聞かれました。



入賞した本学からの参加者 崔天晟さん

■学長主催 留学生懇談会（2012年11月30日）

毎年恒例となっている留学生懇談会が、前田秀一郎学長主催のもと、甲府キャンパス大学会館で開催され、留学生や教員、県内国際交流関係の来賓の方々など、163名の参加がありました。本年度の参加者は例年を上回り、学内・地域を問わず国際交流に対する意識の高まりを感じさせました。参加者たちは、心のこもったスピーチ、各国の歌や踊りを披露し、交流を深めました。特に今回は本学附属施設 燃料電池ナノ材料研究センター教授のドナルド・トリック先生が、本場スコットランドのバグパイプの演奏を披露してくださり、会場をひとときわ沸かせました。



■留学生のための統計講座（2012年11月15日～16日）

総合分析実験センター、中本和典教授の協力を得て、留学生に向けた統計講座を、毎年、医学部情報科学講義室にて実施しています。今年度から講義室にSPSSが設置されたため、SPSSを用いた講義となりました。初日は「統計の基礎 相関係数」で16名、2日目は「 χ^2 検定」と「t検定」についてで14名の参加がありました。毎回、英語と日本語の両言語での講義となっており、学生の満足度も高く、今後も留学生の基礎力養成のため続けていこうと考えています。

■外国人留学生等研究発表会（2013年3月8日）

医学部臨床講義棟大講義室において、留学生等研究発表会が開催されました。大学院修士課程、及び博士課程の学生（工学領域3名、教育領域1名、医学領域7名）が日本語あるいは英語で発表を行いました。出身国別では、中国が最多で9名、その他はバングラデシュ1名、インドネシア1名でした。それぞれの専門は異なりますが、学部を越えての研究発表は、学生にとっても力がつくだけではなく、指導教員も含め、お互いの理解を深めるよい機会ともなっています。



■留学生のための就職相談会（2013年3月25日）

3月の就職活動真っ只中の時期、日本で就職活動を始めている留学生を対象に、現在どのような活動をしているのか、またどのような問題に直面しているかなど、同じ状況下にある学生同士で情報を共有し合いながら、共に考え、今後のそれぞれの就職活動に生かしていこうという趣旨で相談会を開きました。本学キャリアセンターの秋山キャリアアドバイザーを講師・コーディネーターとして招き、3月以降の企業の動きと対策について話を伺った後、参加者全員が現況を語り、キャリアアドバイザーに対する質問も含めた、自由で活発な情報交換会となりました。この相談会は初めての試みでしたが、参加した留学生からは、就職活動で疑問だったことや不安だったことが解消・軽減できて有意義だったという感想が寄せられました。

■留学生のための就職ガイダンス（2013年7月8日）

日本での就職を希望、あるいは検討している学部3年生や修士1年生を対象に、就職ガイダンスを実施し、本学キャリアセンターの杉山キャリアアドバイザーから、日本の就職活動の流れや夏以降の具体的な取り組みについて話していただきました。このガイダンスには、なんとこれから就職活動を始めるという修士2年生の姿も。参加者にはエントリーシートという言葉は初めて耳にしたという人もいて、留学生が日本の就職活動に乗り遅れない指導・支援の必要性を改めて感じました。

■ホーム・ステイ / ホーム・ビジット（2013年6月29日～30日）

毎年恒例のホーム・ステイ / ホーム・ビジットに、今回は17名の留学生と14組のホストファミリーの皆さんが参加しました。毎回、留学生とホストファミリーの組み合わせに際しては、両者の希望のほか、ペットや喫煙の有無、ホストファミリーの当日の予定・計画などを考慮するので、決まるまでに一苦労なのですが、今回は例年以上に苦戦。男子学生7名の希望者に対し、女性の受け入れを希望するホストファミリーがほとんどだったため、一件一件にお電話をお願いするなどして調整し、結果的に希望した留学生全員が参加することができました。一緒に料理を作ったりドライブに出かけたりと、過ごし方はそれぞれで、なかにはホストファミリー同士が知り合いで、2組で一緒にBBQを楽しんだところも。留学生にとっても地域の方にとっても普段なかなか知り合う機会がないだけに、ホーム・ステイ / ホーム・ビジットを通じて（この地域にこんな人が住んでいるんだ）と、相手に興味と親しみをもってもらえるような、人と文化の出会いの場を提供できたら、と思っています。

■桃狩り（2013年7月20日）

今年は、例年になく暑い日差しを浴びておいしく実った桃を楽しもうと各学部から10名が集い、笛吹市の桃園に出かけました。桃園の方から、木の枝ぶり、桃の位置と色から甘い桃の選び方を学びました。慎重に、はちきれんばかりに大きい桃をもぎ取り、頬張りながら学生同士で、また見ず知らずの他のお客さんとも、もぎたての桃を食べ比べ楽しみました。桃狩りの後には、石和温泉駅から徒歩で行けるワイン工場でワインの生まれる一連の流れを見学しました。外の暑さを一時的に忘れさせるひんやりとした貯蔵庫、そしてかぐわしき香気を放つ熟成樽の間を通過して、最後は山梨県産のブドウで造られた樽香の豊かなワインやリキュール、ジュースなどを試飲でき、いい気分転換が図れた一日となりました。



■たべもの異文化交流会 (2013年8月22日)

留学生と地域の交流をねらった「たべもの異文化交流会」が、今年も医学部キャンパス国際交流会館で開催されました。天気にも恵まれ、中央市長をはじめ地域の人々、留学生、大学の教職員約300人の参加がありました。今年は、中国、パキスタン、ヴェトナムと参加国は若干少なかったですが、新しい味が楽しめました。中国からは定番の餃子ではなく、牛すじ煮込み、八宝粥、ネギ入り薄焼きパイ、ヴェトナムからは手羽先、パキスタンのチキンティカポティが出されました。また、子ども達の参加も多く、焼きそばの長い行列が印象に残りました。例年になく暑い一日でしたが、スイカ割り、盆踊りと最後まで皆で楽しく過ごしました。



■実地見学旅行 (2013年9月17日～18日)

台風18号の影響も危ぶまれたものの、幸いにも台風一過の雲一つない晴天に恵まれ、33名の留学生の参加を得て、岐阜県の飛騨高山、そして白川郷へと出発しました。まずは昔ながらの飛騨の農村の暮らしが再現されている「飛騨の里」で、ガラス風鈴の絵付けに挑戦しました。色使いとデザインがユニークな多くの力作が完成し、来年の夏には、涼しげな風鈴からの音が暑さを忘れさせてくれるでしょう。江戸時代の町屋が残る高山市内では、かわいい小物を売る店や朴葉味噌やお団子など飛騨地方ならではの店を訪ねたり、陣屋前の朝市で山梨県では見られない野菜や果物、お漬物を前に地元の方々と会話を交わしたり、街歩きも楽しみました。次の見学地、白川郷は、高台から眺めると、小さな集落が日本の原風景でありながら静かな生活の営みも感じる景観で、世界遺産であるのも納得できる美しさでした。世界遺産に登録されてからは、観光客も増え、土産店も多くなり、閑静な村の雰囲気も少しずつ変化しつつあるのかもしれない。



留学生 センター 教員



奥村 圭子
kokumura@
yamanashi.ac.jp
055-220-8152



高田谷 久美子
kumikot@
yamanashi.ac.jp
055-273-8289



仲本 康一郎
knakamoto@
yamanashi.ac.jp
055-220-8272



伊藤 孝恵
takeai@
yamanashi.ac.jp
055-220-8753



江崎 哲也
esakit@
yamanashi.ac.jp
055-220-8752

山梨大学留学生センター

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37 TEL 055-220-8047/8373

E-MAIL yu-study-abroad@yamanashi.ac.jp